

傳策問合原氏

三十四

特 別

A13

4274

34

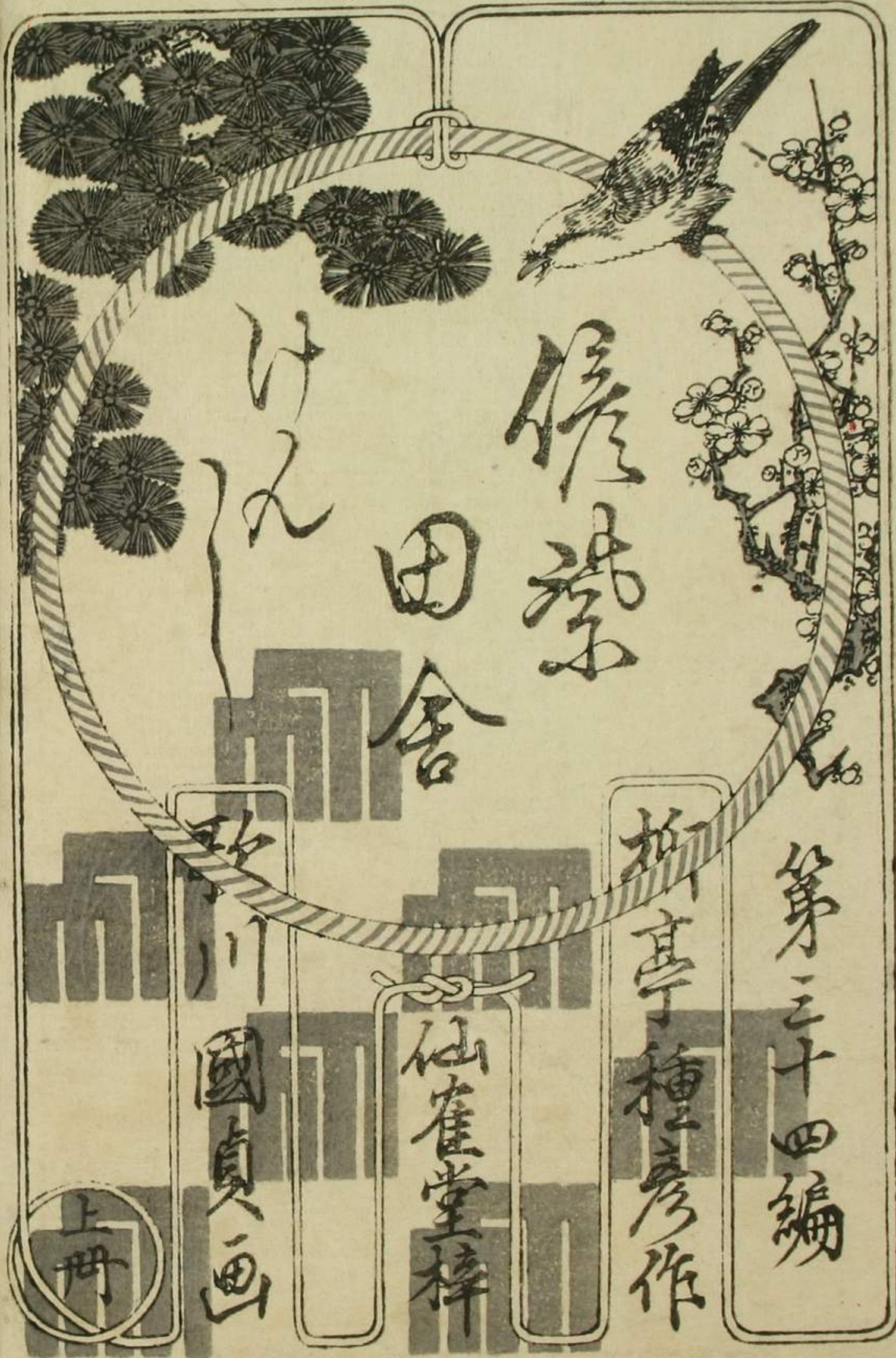




小枝  
花

三十四編上

91-2365



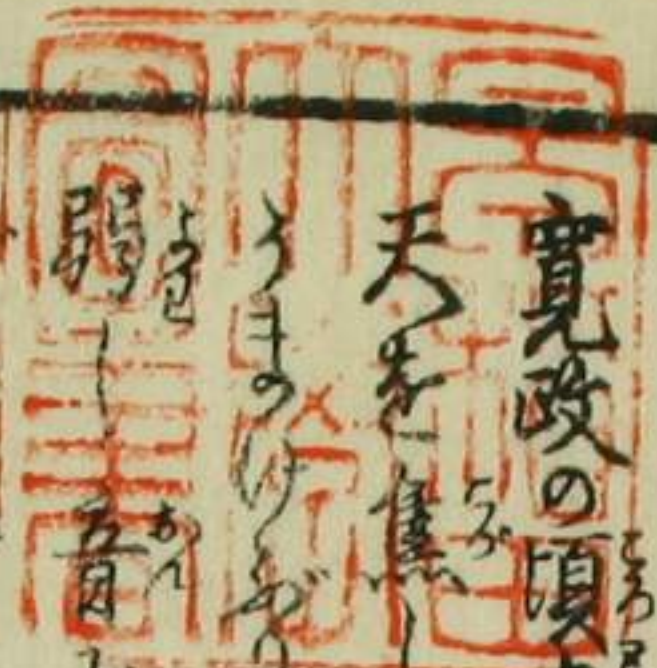
第二十四編

柳亭種彦作

仙雀堂梓

柳川國貞画

上冊



寛政の頃東圓といひ一軍書續同事を並べいふ口癖あり壁言ハ狼煙  
 天を焦リ一合國のけぶり立登ると一むら茂る森の裡より馬烟  
 うまゆりありを蹴とそといふ類あり幾ふ人も多うしかうま煙でハ語勢  
 弱く音ぶらびさのりろたがぬ又別ふのかき是も一派の釋法なる  
 毎一印 かの草紙ふらぬやまをささづりて道具調度あるといふ  
 添言重言ハ是よりの業あるは物織人の若くは見ゆらん  
 あいのとをうとをかむと車の手くらんがみ振子ふらり安きをあといれ  
 なるあり。さういふはさういふ面向きさうで後の明晩と常連のある浦羅仕  
 又来る春を待たへ上りの他者であなれはゆきをみ人集の前庭  
 の子が長い物を繞いづる應仁の修羅場が海で張扇の張合  
 ぬひいよく眠氣が片見物ふさとも承知のうあがらまて席亭  
 の仙雀堂の燈をひらきさうあまの二十四編目のりりりけり  
 からぬ初巻の蝶の鏡切あり

舌師 柳亭種彦

原氏三十四編

壹





年々あらん  
そのけき  
あまのち  
かきり



うらやまのこころ  
あまのち  
かきり

あまのち  
かきり

武家の名  
あまのち  
かきり

あまのち  
かきり  
あまのち  
かきり  
あまのち  
かきり



あまのち  
かきり

あまのち  
かきり  
あまのち  
かきり

あまのち  
かきり  
あまのち  
かきり  
あまのち  
かきり



ゆづり  
きんぎょ  
ついで  
ついで  
ついで

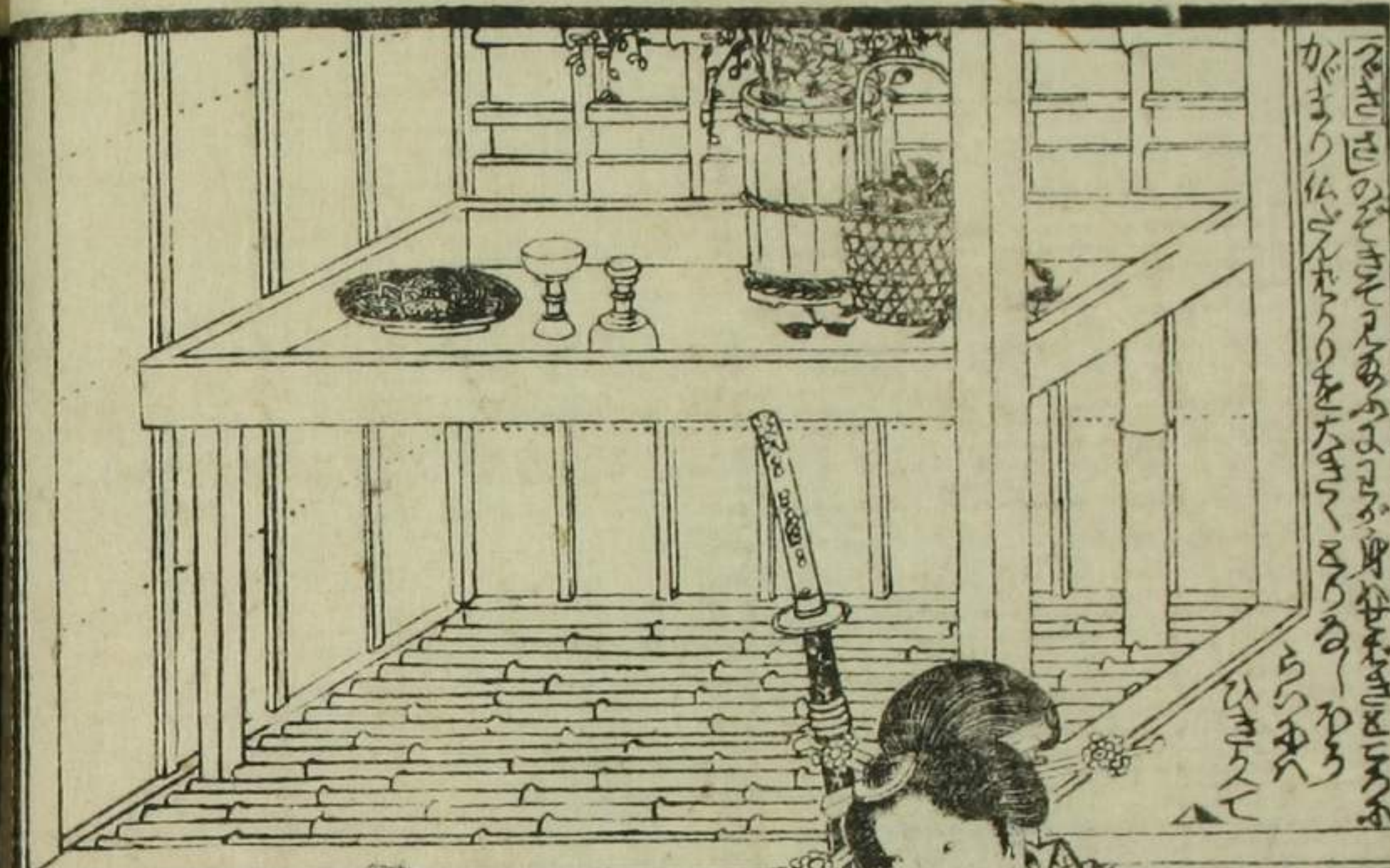
ゆづり  
きんぎょ  
ついで  
ついで  
ついで



ゆづり  
きんぎょ  
ついで  
ついで  
ついで

ゆづり  
きんぎょ  
ついで  
ついで  
ついで

さきほのまきそえあはよは身母をまきそえあ  
かまりはえちりをまきそえあひまひ  
らひあへ  
ひまひ



△あまきまををあはれお  
まのあまきまをけしあまの  
まのあまきまをけしあまの  
あまのあまきまをけしあまの  
あまのあまきまをけしあまの



△左のあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの



あまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの

















あひの  
まきも  
ゆるぐ  
まらせ  
さる  
申

あひの  
まきも  
ゆるぐ  
まらせ  
さる  
申

あひの  
まきも  
ゆるぐ  
まらせ  
さる  
申

あひの  
まきも  
ゆるぐ  
まらせ  
さる  
申



あひの  
まきも  
ゆるぐ  
まらせ  
さる  
申

あひの  
まきも  
ゆるぐ  
まらせ  
さる  
申

あひの  
まきも  
ゆるぐ  
まらせ  
さる  
申

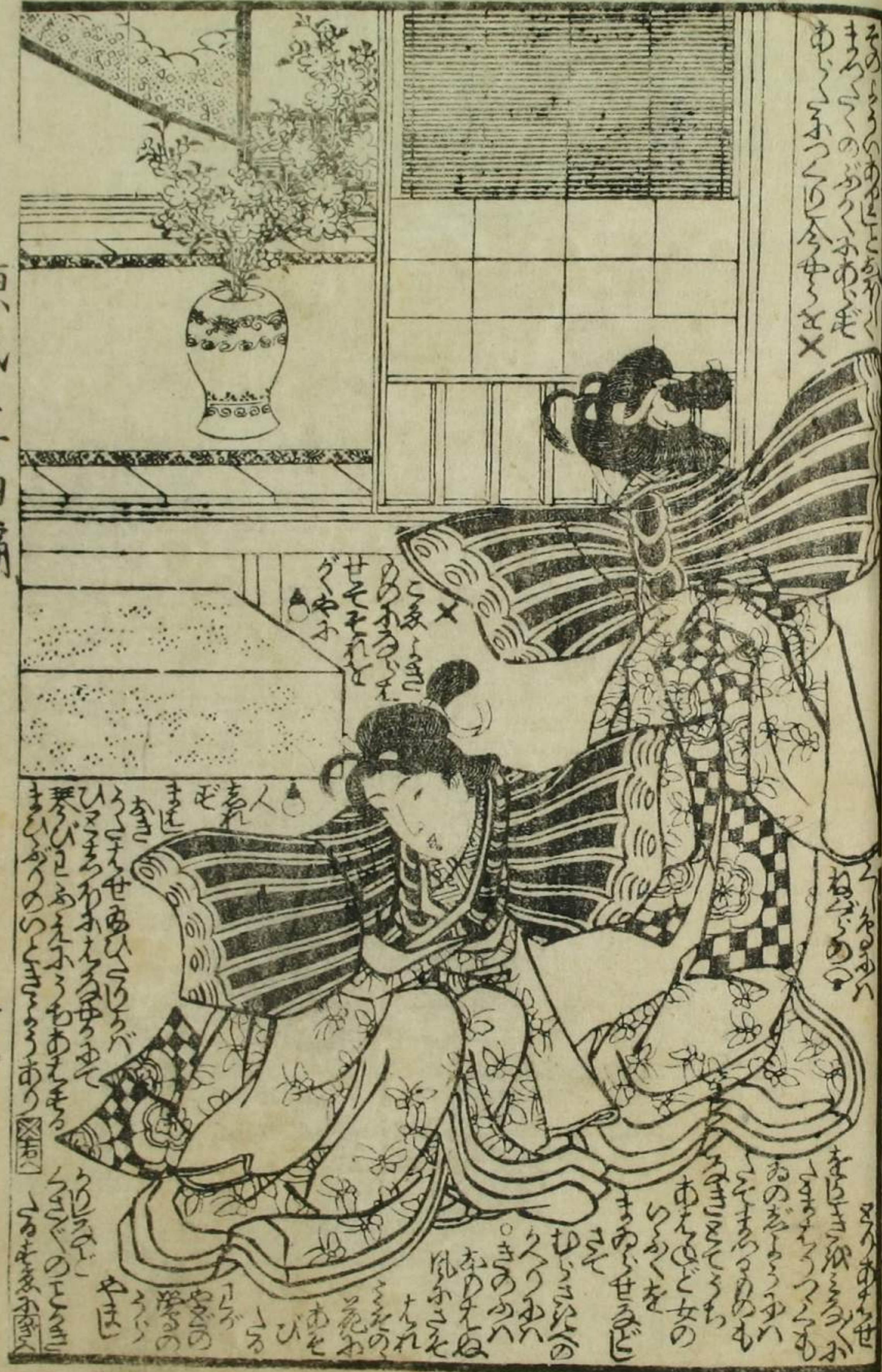
あひの  
まきも  
ゆるぐ  
まらせ  
さる  
申

あひの  
まきも  
ゆるぐ  
まらせ  
さる  
申









そのまはりのあはれにちかづく  
 まるくのちかづくあはれも  
 あはれまふつりいんちんを

まはりのあはれにちかづく  
 まるくのちかづくあはれも  
 あはれまふつりいんちんを  
 まはりのあはれにちかづく  
 まるくのちかづくあはれも  
 あはれまふつりいんちんを

白ノ下ノ日景



つき水ある  
 そと  
 ちと  
 あはれまふつりいんちんを  
 まはりのあはれにちかづく  
 まるくのちかづくあはれも  
 あはれまふつりいんちんを

まはりのあはれにちかづく  
 まるくのちかづくあはれも  
 あはれまふつりいんちんを  
 まはりのあはれにちかづく  
 まるくのちかづくあはれも  
 あはれまふつりいんちんを

白ノ下ノ日景

白ノ下ノ日景











右ノ下ノ...

左ノ上ノ...

右ノ上ノ...

左ノ下ノ...

右ノ下ノ...



右ノ下ノ...

左ノ上ノ...

右ノ上ノ...

左ノ下ノ...

右ノ下ノ...

右ノ上ノ...

左ノ下ノ...

歌川國貞画 柳亭種彦作



倭紫田舎源氏

柳亭種彦作 歌川國貞画

三十四編の初めをよみかぎり初巻より下冊の巻とあり三十五編  
上冊のすゑの螢の巻をつり下冊のすゑの常夏あて二十六編 上下續き  
下冊のかげの火のつらふ二葉野らさも三十七編の上あて書きてあて巻  
清幸お次をよむるは三十八編又書をよみかぎ以上五巻の五の新ね  
子の暮まふふ三巻製本二巻の丑の正月おきあふやの五十四帖は  
三千帖とす事過彫刻も今も清長夏あてのよみかぎの序ひききと  
不むおき序もこの序知後を編む奉希ひ  
仙鶴教自

油の麻かしの 製所  
美艶仙女香 南信馬町  
黒油美玄香 三丁目西側  
坂本氏 取次



書物錦繪 問屋 江戶通油町 鶴屋喜右衛門



